

「無口な子」の指導事例



金子 徳 恵

入園当初は、例年のことながら、マンモス団地という人為的環境の中からくる子どもたちのなかに、集団不適応児が数人いた。これらの子どもは、泣いたり、母親にくっついたり、ひとこともしゃべらなかつたり、また、非常におちつかず、衝動的行動がおおいなど、それぞれの反応を示した。

この不適応児を、一日も早く集団生活に参加させるには、どのように指導したらよいか。いろいろ考えた結果、次のような方法をとってみた。

(1) 各種調査からの考察

地域環境調査、家庭環境調査、家庭訪問、知能テスト、社会成熟度診断検査から、原因及び入園前の状態を考察する。

(2) 行動観察法による指導

・観点 1、個人(自主、自律)

- 2、友だちとの関係
 - 3、教師との関係
 - 4、クラスとの関係
- ・行動記録

1、できるだけ具体的に、行動を描写する。
2、その行動を考察し、適切な指導をくわえる。
3、それによってあらわれた、子どもの反応をみる。
以上のような方法により、各児の指導にあたってみた。次の例は、なかでも重症とみられた、A子の場合である。

△無口な子▽

A子

概略

性別 女、生年月日 昭31・9・21、保育歴 二年年長

1. 個人

月	行 動	考 察	指 導	反 応
6	はじめて「おはよう」とあいさつをする。	前日に家庭訪問をしたので急に親密な感をましたらしい。	「きのうA子ちゃんの家へいったわね。新宿住宅なのね」といつてやる。	うれしそうに、ここにこして、その日は何回も教師のそばにくる。
6	金魚をみたり当番札をみたり、部屋中散歩する。	はじめてみる部屋のように、立ち止まったりしてじっとみたりし手をつねにふれたりしている。非常に大きな気持の変化がおこったようだ。	呼びかけずに、そっとしておく。	
7	七夕かざりの製作を最後までやる。だまってやっている。	教師の話をよくきいているので、仕事事がうまい。	皆の前で作品をほめてやる。	得意そうな顔をずる。
7	1学期間1日も欠席をしなかったの、皆の前でほめられる。	前年度の3分の1の欠席に比べて今学期は無欠席なので、園生活に対する興味が出てき、本人も相当努力したようだ。	「1日もお休みしなかったえらかったわね、がんばったのね」とほめて自信をもたせる。	あとで「もう、ずっと休まないよ」といいにくる。
9	運動会の競技リズムの練習に興味をもつ。競技のルール要領などを早くおぼえ真剣にやっている。	かけっこなど友だちが笑うほど、剣剣な顔を的意にしている。このこと気づいた。	1番になったときは大声で「1等賞」といつてやる。友だちが「すごい」といつ。	わぎとくふらよらめくようふなかつらうなな教師にもたれてくる。嬉しさを体で表現している。
10	ふくろうの指人形を動かす。はじめ、動かしてみたら部屋を一周する。	指人形は次々たの子供が使い、あなときいので、いかにたそうにみている。		

まとめ・幼稚園に対する興味が出てき、喜んで登園するようになった。・いつも自分の席にばかりいたが、今では自由に活発に行動できるようになった。

問題点

今年度

- 一、誰もしゃべらない。
- 二、友だちができない。
- 三、集団にいられても、いつのまにか一人になってしまう。

前年度

- 一、欠席が多い。
- 二、作業に好き嫌いが多く、ほとんどやらない。
- 三、友だちといっしょにあそんだり、しゃべったりしない。

一—四表に示した指導例をまとめ、総合的に考察してみると、次のような経過をたどってきたことがわかった。

B子の非社会性は、入園後、半月位であらわれてきた。不適応の

外見 非常に發育良好で体格がよい。いつも落ち着いている。

2. 友だちとの関係

月	行 動	考 察	指 導	反 応
7	自分の席で、なら本をか みながら、5分位た顔を みている。まっからE子 をE子に相手も つけていける。まっ つづけている。	だまっ本をよん でいたら、隣席の干渉 E子がのぞき干渉 したらしい。そし てまわりの子にい いふらしたので、 無言の抗議をして いたようだ。	E子が教師に助け を求めにきたが、「A をまたせておき、「A 子ちゃんどうした の」とA子の立場 にたって声をかけ る。	きまりわるうに、にら やにやなす。E子のあ 目教師の机にきける。オ まわ席をきける。オ 出席簿をきける。オ 教師に理解しても らえたという安心 感がみられる。
9	虫かごの製作が1番 にでき、教師にほめ られはるか、そうに する。友だちに手 つづけてやるように わかれて、友だちの に立つ。だまっ 紙を切つてや る。友だちに「あり がとう」といわれ て、まっかな顔を する。	手伝いたい気持は あっても、話しか けられない。 どうしているの か困っているよ うです。	「テーブルを切つて あげたら」と助言 する。	皆の前でめられ、う しそ女れか、席にも と女れか、得意そう にわられたお切り わかれたお切り おわかれたお切り おわかれたお切り だんだん自分の存 在を友だちにみと められてきたので 自信がついてきた ようだ。
10	オルガンのあいたの をみてオルガンの前 をみとていく。誰も りを見廻して誰も ないのをたじめる。 ならひきはじめる。 1本1本の指に力 をいれて、音をた かたにひきかす。 Mがそばに いき、なにか いうすぐかわる。	ひきはじめる前 に比べきだしたら 比周囲を全然 気にしていない ようである。	もう少しつづけ させかたがM子 がきたので、や めてしまった。「 オルガンのね。 M子の次に並ん でもう1度きか せ」という。	うなずいてM子の 次に並んだが、そ の後にふたりき いたので、いつ か席にもどつて しまった。
10	5、6人で楽し まごにやっている まごに立って、 じつとみている。 さっくつをぬい でさっくつの上 にすわは る。「A子ちゃん は大きいからお 姉さんな よ」といわれて うなずく。皆にお ねえさんとよば れて、ごは んの仕度をする。 その中いつの まにか自分の 席にもどつて しまった。	いっしょにやりた そうだ。 お客様がお母さん のるすにきて、お ねえさんがあい さなければなら なくなつたから らしい。	「A子ちゃん。先 生の子になら ない」という なぞ。「ごめん くささい。この 子は家の子 ですが、い でっくさいな」と グループにい れさせ る。	さそわれると素直 にまごとはい って行く。
11	K君とよく話 をする。おたが いにくレヨンを しあけてあげたり、 本をもちあ げたり、本を もちあ	同じ傾向をもつ K君と何か共通 性を感じたの だろうか。	ときどき「K君 となかよしね」と いってやる。	ふたりで顔を見 合せてにっこり する。そのあと 小さな声でな か話を している。
<p>まとめ・運動面、作業面の能力を友だちに認められてきたので、自信がついてきた。 ・友だちがひとりできた。・友だちと短い会話がかかわせるようになった。</p>				

3. 教師との関係

月	行 動	考 察	指 導	反 応
6	教師からあいさつをされても返事をしない。	まわりに友だちが2, 3人いたが、あいさつがでなかつたらしい。	「おはようございます」と呼びかけたが、反応がなかったのでもう一度お話を聞いてみる。	ちらっとみても、きこえないふりをしてる。
6	髪をきれいに分けて、リボンをつけてくる。	家から走ってきたのは、うれしそうにしている。	「きれいね。だれにやっていたの」ときく。	「おかあさん」と大きな声でこたえる。
6	前日と違う髪をしてくる。		「きれいね。きのうとちがうのね」	「うん、またおかあさん」
6	また違った髪をしてくる。	毎日変えてきて、うほめられるのがうれしらしい。声をかけられるのをまっているようだ。	「きょうもきれいなね」「A子ちゃんのお母さんはじょうずね」	「うん、お母さんなんでもできるよ」
7	毎朝必ずあいさつをするようになる。	保育室に入りながら、目で教師の姿をもとめる。	あいさつのほかに必ず何か話しかける。	小さな声で断片的に答える。
9	「お便所に行きたいですか」とききにくる。(この日は3回くる)	何か教師に話しかけたいようすがみられる。	「どうぞどうぞ」とわざとおどけていってみる。	おもしろそうに、笑いながらでている。
10	指人形をはめ、部屋をまわりはじめ、行動をとる(前日途中で人形と出会った)。「これはなにさ」といふと、「え、これいさ」といふ。	前日にくらべて、のびのびと人形を動かしながら歩いている。	人形を持ち反対側から歩いていき、「こんにちは」とよびかける。	不意だったので、返事をつづらなかつた。おもしろそうに、笑いながらでている。

まとめ・家庭訪問以来、急速に教師に対する近親感がわいてきた。・教師の意図的な話しかけも素直に受けられるようになった。・自分から教師に話しかけるようになった。

症状として、無口、孤独の傾向がみられてきたのである。調査(家庭訪問、書類調査、母親との話し合い)の結果、次のようなことがわかった。

① 3人姉妹の末子で父親が非常にあまやかした。また、男児用玩具を与え、ボクシング、チャンバラ、じゅうどうなどの遊びを教えた。服装も、スカートより半ズボンの方が多く、男児のような育て方をした。非常に体格がよく力が強いので、いつも姉たちより優位にたち、わがままをおし、意のままにふるまってきた。

② 母親が職業をもっているのが、3人でする番をすることが多かった。そのため、外にでることが少なく、ひとりも友だちができなかつた。

以上の事から問題行動の原因は、不満、不安、劣等感、あやまつたし

4. クラスとの関係

月	行 動	考 察	指 導	反 応
7	当番札をみて立ち止まり、自分の名前がみえているのを小急いで水をかえり、鳥のあたりを見わたして自分の席にすわる。	初めて当番の仕事をする。内容の細かい水をかいてから、急いで周りを意識したらしい。	「きょうはお当番のうさぎは、小鳥さん、うねうねといてやる。」	当番の仕事と他をよくこなし、ひらなしゃべらない。
7	皆といっしょに七夕の飾りに「A子ちゃん早くてようざだよ」といわれる。	教師の話をよくきいているので、仕事の手順がうまい。まわりの子が製作面に能力のあることを発見し、A子の存在を認めできたらしい。	みんなの前で、作品をほめてやる。	とくいそうな顔をする。
9	リズム遊びで自由にグループを作るときひとりぼっちになった。次の3人組になるときはできた。	自分から進んで手をつなごうとしたので、最後に残ってしまった。	「A子ちゃん、はひしと組なな。今度まは3人組。全員に呼びかける。」	3人組だと、端数がでないので、今度友だちに呼ばれて、やることができた。
10	全員でやる椅子とりで、がんばって1番になった。	非常に興味を示し、最後に3人残ったが、周囲を気にすることもわすれ熱中する。	教師が「A子ちゃん、がんばれ、他の子どもがまねして「A子ちゃん、しっかり」と応援しはじめた。	
10	ひとりずつやるスキップの順番がまわって正しくリズムになっている。	今まではひとりだけでやったが、今日は元気がよく、やっていく。椅子とりで自信がついたようだ。	声をかけることにやしたが、皆を意図しないので、だまっていた。	
10	ペーフ・サートを作り、劇あそびをすげ打合せを始めて、友だちの動きをあわせて形を動かす。せりふはいわない。	全員の前でも気がすまなかった。友だちの意見をよく聞いて、自分いらない。皆の前でやれるのでううだ。	ひとりひとりの動きをほめ、声をいう。最後に「A子ちゃん、さうなうなう。」	「もう」と大きな声でいう。 A子ちゃんのほんとの牛みたいね もう1度「もう」といったので、皆がおもしろそうに笑う。(好意的)
まとめ・クラスの当番を、喜んでやるようになった。・友だちに認められ、クラスの位置づけが安定してきた。・さそわれれば、グループに入れるようになってきた。				

つけ、と
考えられ
たのであ
る。
そこで
無理なく
早く適応
させるた
めに
①集団の
中で
位置づ
けを安
定させ
行動に
自信を
持たせ
る。
②友だち
から承
認され
るよう

にしむける。

③緊張を解消させる。

④のびのびと、おもしろのままにふるまえる環境をととのえてやる。のびのびとポイントをおき、上記の問題点の解決をはかった。

その結果、前年度の問題点

①は、教師と母親との緊密な連絡により、幼稚園に対する興味を持続させ、登園を習慣づけたのである。

②は、能力はありながら気分が左右され、やらないことが多かった。そこで、いつも作業の結果を友だちの前でほめてやり、自信をもたせた。

③は、教師が誘導し、いっしょに遊びにいられても、すぐ席にもどってしまふ。このような状態がくり返されて、ひきつづき今年度の問題が残されたのである。

そこで友だちより教師と、自由に話し合えるように、できるだけ交渉を持つようにしたのである。はじめは、教師の呼びかけが多かったが、家庭訪問をきっかけとして、意外に早く問題がとけてきた。教師に対する近親感がましてから、積極的に話しかけてくるようになった。

次の段階として、教師が媒介となり、友だちと話せるようにしむけてみた。だが、これはなかなかうまくいかなかった。教師に対しては、信頼感と親密感をもって、無条件で受けいれてくれるが、友だちとなると、劣等感から生じる抵抗があるようである。しかし、

教師との関係がふかまるにつれて、じよじよに緊張感が解消されてきたようである。また、作業面、運動面での能力も友だちに認められてきたのである。そしてある程度、気持が安定してきたとき、自分と共通点を持つK君を発見した。他の友だちとちがいが、何の警戒心も持たずにふるまえるので、急速に仲よくなっていったようである。今ではふたりで、なにか話し合っている姿が、ときどきみられるようになった。このように1番目の友だちが得られたので、次にふたり、三人と、次々に交友関係が広められるにつれ、問題が解決し集団に適應できる日もまじかではないかと考えられたのである。

(註) 卒業期には、他の子どもとほとんど変わることなく、楽しい園生活を送ることができた。子ども会の劇には、進んで役を引き受け、せりふも、じょうずにこなした。

参 考 資 料

- 一、家族関係 父(四七才) 公務員、母(三五才) 会社員、姉(八才) 小三年、姉(七才) 小二年
- 二、入園前の状況 水痘が重かったほかは、ほとんど病気をしない。姉ふたりがいたので、他の友だちとあそびだことがない。
- 三、知能指数 田研B式 IQ 一一〇
- 四、近隣関係 母が仕事をもっているため、近隣との交際はあまりない。
- 五、地域環境 住宅地、マンモス団地(アパート)

これは昭和37年度新宿区立幼稚園教育研究会の際に研究したものである。(新宿区立西戸山幼稚園)